

茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：8月25日（日）現地時間16：29～16：52

場所：フランス・ビアリッツ

（茂木大臣）本日11時15分から約1時間、安倍総理、トランプ大統領の日米首脳会談が開催されました。その中で、日米貿易交渉について進展があった、このような報告をさせていただいて、非常にいい話なので、是非安倍総理と一緒にトランプ大統領が会見をしたいということで、その後、共同記者会見が先程行われたところです。私とライトハイザー通商代表にも同席をしてほしいということで同席いたしました。その内容について改めてご報告をしたいと思います。

日米貿易交渉につきましては、昨年9月26日の日米共同声明に沿って、私とライトハイザー通商代表との間で交渉が進められ、農産品、工業品の主要項目、core elements、もしくは、ライトハイザー代表は、core principlesという言葉を使っておりましたが、まあ、同じ言葉であります。この主要項目について、意見の一致を見、そのことを安倍総理とトランプ大統領が本日確認をいたしました。

日米両首脳は閣僚協議の進捗を歓迎し、9月末の協定の署名を目指して、残された作業が様々ありますので、これを目標にして残された作業を加速させるということで一致を見たところであります。

本協定によりまして、農産品については過去の経済連携協定の範囲内で米国が他国に劣後しない状況を早期に実現するとともに、工業品についても日本の関心に沿った関税撤廃、削減が実現することで、双方に利益となる貿易、経済関係の強化が可能になるとこのように期待しております。

（記者）会見でトウモロコシの話が大統領からなされたが。これについて伺いたい。

（茂木大臣）これは貿易協定とは別件の話だが、トウモロコシは中国の問題もあるので米国でだぶついていることへの懸念が示された。総理から、我が国では今年に入って、トウモロコシ等に寄生する害虫の被害対策の一環として海外のトウモロコシの前倒し購入を含む代替飼料の確保対策を実施することとしております。飼料用トウモロコシの多くが米国から買われていることからこの対策の実施によって、結果的に、これは民間企業の購入にということになりますが、米国のトウモロコシが前倒しで購入されることを期待していると、こういったことを総理としては説明されたとこのように考えております。

（記者）通商拡大法232の話が貿易交渉の前、後と最中にもありましたが、232に基づいた追加関税なり、数量規制なりというのは、これはもうないという理解でよろしいでしょうか。

(茂木大臣) まず、我々ライトハイザー通商代表との間で9月26日の共同声明に沿って交渉を進めております。そして、共同声明におきましては、交渉を行っている期間については、お互いが信頼関係に基づいて交渉を進め、その精神に反する行動は取らないということが明記されております。そして、これは232の関税、232の適用を日本に対して行わないという趣旨であることは、昨年の9月26日の首脳会談で確認をしているところでありますが、たまたま今日、トランプ大統領に対してこの種の質問がありまして、中国と日本の関係でトランプ大統領は答えていたと思いますが、中国について高関税がかかっているわけですね、これは変えないと。一方で、日本についても変えない、つまり232条の適用をしないと、このような話を今日もされていたのだと、このように理解いたしています。

(記者) トランプ大統領、先ほど交渉について、「合意」という言葉をライトハイザー代表と使っていたと思うのですが、今回「合意」ということではないのですか。

(茂木大臣) トランプ大統領はですね、大きな話をされますので、例えば “in principle” という言い方をされて、それについて、より正確にライトハイザー代表が “core principles” つまり、“core elements” のことでありますけれども、そこで意見が一致したとこのように正確に表現されているわけでありまして、大きな流れとしては、合意となりますと、具体的なですね、例えば協定の内容、本文であったりとか、そういったものも含めたことになるわけですし、現在の段階、少なくとも私とライトハイザー通商代表との間では、この “core elements” について意見の一致を見たということになります。因みに、完全な合意というのは、協定にサインをするということになるわけですが、そこまでいっていない合意でいいますと、大筋合意、これは協定の本文がリーガルスクラブの途中であるけれど、内容面では完全に合意している状態、これが大筋合意であります。そして、大枠合意、これは、一部の項目について作業中だが、協定本文はほぼ固まっている状態、これが大枠合意ということですし、今回、意見の一致を見たのは、こういう文章の形になっているものではなくて、それぞれの項目について意見が一致したということでもあります。内容的には違っておりませんが、合意と使う場合には、きちんとした協定の文章なり作ったものについて、一致している、この場合が合意でありますので、そういった意味では、意見の一致を見たという方が今の段階の状況を表すには適切な言葉だと思っております。

(記者) 今日の両首脳の間で、来月の署名を目指すという非常に大きい判断だったと思うのですが、大臣として、来月の署名というのは、実現可能性はどうかということについてお願いします。

(茂木大臣) 両首脳の間で、それを目指す、こういう目標を掲げて作業を加速させるということで一致を見たわけでありまして。内容について合意をした後で、協定本文、さらには譲

許表等についてリーガルクラブを日米で行って、それが整えば署名ということになるわけですし、23日にワシントンD.C.でも申し上げましたが、この後事務レベルの作業というのがたくさん残っております。本文を作っていく話から始まりまして、さらにはその前に原産地規則を決めたり、様々なことを急がなければいけないと思っておりますが、この目標に向けて作業を加速させるということに間違いありません。

(記者) 今日、首脳会談の中で、発効の時期についての意見交換はありましたか。

(茂木大臣) それはありませんでした。

(記者) 先ほどのライトハイザー代表の会見でも、アメリカの農家についても非常に大きいと、70億ドルの市場開放につながると、それに対して日本が求めていた自動車関税の撤廃については、それらではないと、”but not those”という言い方をされていて、一部の他の関税が無くなるということは言っていました。日本が求めていた自動車関税は無くならないわけで、そういう意味では、日本の交渉自体が敗北ではないかと思うのですけれども、それについては、いかがですか。

(茂木大臣) そういういい方はされていなかったと思います。例えば、農産品についてはどうなるという個別の内容は別にしまして、アメリカにとって今TPPの発効であったりとか、EUとの間で日EU・EPAが発効することによって、米国が劣後しているという状況が早期に解消されることによって、米国の農家にとってメリットになる、とこういう話はされていたと思います。そのうえで、決して日本の自動車につきましては、他国と比べて劣後している状況が今あるわけではありませんので、そういう解消しなければならないこういう問題ではありません。ただ、それ以上の内容につきましては、いま合意という段階ではありませんので、きちんと協定について合意をした段階で個別の内容についてはお話ししたいという風に思っております。

(記者) TPPの枠内という話で農業については、農産物関税は下げるということで合意したというか、意見の一致を見たわけですが、自動車については自動車本体の関税については、乗用車もピックアップトラックも日本からすれば取れなかったわけで…。

(茂木大臣) それは、間違っています。

(記者) 間違いですか？

(茂木大臣) というかですね、そこまで内容には踏み込んだ発言はされていないと思います。

いずれにしても、内容については合意がなされた段階で公表することになるわけでありませぬけれど、お互いにとって win-win になるという、そういう意見の一致を見ていると、このように思っておりまして、今の段階で個別の品目についてこれの税率が何パーセントになるとか、何年目にこうなるとかこういったことはお答えできません。コメントは控えたいと思います。

(記者) 敗北ではないかという指摘が当然国内から出ると思うのですけれども、これについて大臣はどうお考えですか。

(茂木大臣) きちんと合意発表された段階でお話ししたいと思っておりますが、そのような形にはなっていない、そう確信をいたしております。

(記者) 細かい点ですけど、意見の一致を見たというのが正しいとおっしゃっていましたが、トランプ大統領は principle agreement と言って、ライトハイザー通商代表は core principle agreement と言っているわけで、彼らの言っている原則合意という言い方に対して異議を唱えるということではないのですか。

(茂木大臣) おそらく大統領は全体の進捗状況についてお話をされたのだと思うのですが、agreement in principle と言いますと、大筋合意のことですから、それは先ほど説明したような状態でありまして、現状で行きますと主要項目について意見の一致を見た、ここに付きましては正しくライトハイザー通商代表もおっしゃっていたとそのように思います。

(記者) 5月末にトランプ大統領が日本に来た時に、8月に合意をできるだろう、発表できるだろうという風に言っていたのですが。

(茂木大臣) そのように言ってません。

(記者) 確か、そういう言い方をしていたかと。

(茂木大臣) 合意などという話はしていないと思います。

(記者) いい発表ができるだろうということを言っていて…。

(茂木大臣) はい。

(記者) 実際に8月に発表になったわけですがけれども、トランプさんからすればですね。こ

れは、5月の段階で一定程度の合意ができていて、大枠なりですね、それが今出てきたということではないのでしょうか。やや…。

(茂木大臣) 違います。そういう期待感を示されたんだと思います。ご案内の通りですね、今年の4月からですが、ライトハイザー通商代表との間では、7回に渡ります閣僚協議を行ったわけでありまして。毎回毎回、相当な時間を掛けておりまして、特に、今回はワシントン D.C. で行いました協議は、1日目5時間、2日目4時間、3日目も2時間、合計11時間の協議を行いました。また、6月以降は事務方による具体的な協議も鋭意進めてきたわけですので、そういった精力的な協議の結果、今日、いい発表ができたということだと思います。

(記者) 今日、急遽共同記者会見を開かれたと思うのですが、どういう呼びかけが向こうからあったのか、どういう経緯で急遽開くことになったのかを教えてください。

(茂木大臣) この日米貿易交渉について明らかに大きな進展があった。両首脳でこれだけ大きな進展があったのだから、我々でまずは発表しようということになって、午後の時間急遽やることになりました。今日最初から決まっていたわけではありません。

(記者) 先ほどちょっと話に出ました、232の追加関税の件は、今日の首脳会談の場で、今後も協定が結ばれた後も発動しないという確約を取ったわけではないという…。

(茂木大臣) 今日はそのような話はしておりませんが、これまでの協議のなかでも、この問題につきましては、日本の関心はしっかりと伝えてあります。米側もこのことについては尊重するという姿勢でありますので、最終の仕上がり、この段階できちんとした対応をしたいと思えます。

(記者) 今日の段階で農産物の関税の具体的な関税率で挙げられるものはありますか。

(茂木大臣) ありません。

(記者) アメリカ向けの乳製品の輸入枠、TPPワイド枠と言われる枠については、どうでしょうか。

(茂木大臣) 過去の経済連携協定の範囲内というお話をしました。それでご理解いただければと思います。

(記者) トランプ大統領がトウモロコシの話で hundreds of millions of dollars という言い方をされていて、数億ドルということ具体的にいっているんですけども、また、朝の段階でトランプ大統領ですね、ミリタリートレードも大きなコンポーネントだという言い方をされていて、防衛装備品の話だと思うのですが、また、これまでトランプ大統領は日本側が工場を7つ出すと約束してくれたとか色んなことを言っているんですが、そういった工場進出とか、防衛装備品の話ですとか、コーンの具体的な話は合意の中に入っているのでしょうか。

(茂木大臣) それは全く協定とは別であります。たまたま先ほどトウモロコシの話が聞かれましたので、私がお場で聞いたことをご報告したまででありまして、私は今、貿易協定についての会見を行っていますので、おそらく、それについては、このあと西村副官房長官にお聞きいただければと思います。

(記者) 数億ドルというトランプさんが言った数字は正しいのでしょうか。

(茂木大臣) ですから、今言ったとおりです。

(記者) 今の会見を伺っていると、署名の段階が初めての発表だというように聞こえるんですが、過去の協定では、例えば大筋合意の段階で細かい条文は別にして発表して、そのあとアメリカ等の手続きもあって署名まで何か月かあるというものが、過去にはあったと思うのですが、大臣としては、署名の段階の発表を考えている。

(茂木大臣) いえ、必ずしもですね、これまでも、大筋合意の段階で発表したりしております。これはおそらく、タイムラグがどれくらいあるかということで決まってくるのだと思いますが、大筋合意の確認を待たずに、そのままずっと進んで協定文までできてしまったら、もう署名をするわけですから、そういった大筋合意、もしくは完全な合意の段階、いずれにしても合意の段階で、内容については公表したいと思います。

(記者) それで、ぴったり署名の段階になるということではない。

(茂木大臣) まだわかりません。これからの作業ですから。

(記者) 簡単に2点お伺いしたいんですが、TPPについてなんですけれども、日本としては、米国にTPPに戻ってきてほしいという意図があったと思うんですが、今回、農業で、TPPより不利がないようにとすると、以後、米国が戻ってくるインセンティブがなくなってしまうんじゃないかという懸念がありますが、それについてはどう考えられますか。

(茂木大臣) 先程、範囲内で、という話を申し上げました。すべてがTPPと同じと、このようには申し上げておりません。

(記者) 2点目ですが、工業品で自動車などアメリカの特にセンシティブな分野において譲歩するというのが仮にあった場合にですね、その場合、農業と工業品の全体のパッケージのバランスっていうのは取れているとお考えでしょうか。

(茂木大臣) バランスの取れたパッケージにするということで、合意をいたしております、ライトハイザー代表との間で。じゃあ、どうバランスが取れているか、これは内容にかかわる分野でありますので、きちんと合意なり署名の段階で公表させていただき、どうバランスが取れているかと、それについても説明させていただきたいと思います。

(記者) 大臣は意見の一致とはいえですね、トランプ大統領と安倍総理が二人並んで会見をしてですね、まあ、何となく喜んでいる状態ですけど、交渉を担当されてきた大臣から見て、ご自身が最初掲げていた目標と今回到着した地点を比べた時に何点くらいの出来とご覧になっていますか。

(茂木大臣) 点数は私がつけるものではない、そんな風に思っております。いずれにしても、昨年9月の日米共同声明に沿って、いい交渉をすすめることができたなど、このようには考えています。

(記者) 確認ですけど、このペースで来月署名を目指すということは、アメリカのTPA法上は、署名する前の段階でいろいろ公表して、90日とかいろいろありますけど、ただ、このタイムスパンでやるとしたら、その法律に基づかずに、議会の承認もいらない、というのがアメリカ側の認識ということではよろしいでしょうか。

(茂木大臣) 米国の国内手続きについては、私がコメントするのは控えたいと思います。

(記者) 確認になりますが、先程の記者会見ということだったのですが、記者団の中では2回目の会談というふうにも伝えられたのですがけれども、そういうことではないのでしょうか。

(茂木大臣) 記者会見の打ち合わせをしました。せっかくいい成果が出たり進捗があったから、記者会見をやろうと急遽なりましたので、やるからにはどういう形、どういうことを言おうかという打ち合わせを簡単にした次第です。

(記者) アメリカのプレスセンターでやったという認識でよろしいでしょうか。

(茂木大臣) 会場の中なんですけど、元々決まっていた話ではなくて、非常にいい進捗をみたから、せっかくだからやろうという話になってですね、やるということになったら、当然若干の打ち合わせはやはり首脳間でも必要ですから、どういうことを言おうかということでも打ち合わせをして、会見を行ったと、ついてはせっかくだからライトハイザー代表と私にも同席をしてほしいという話がトランプ大統領からありましたので、同席いたしました。

(記者) 会見の中で、ロイター通信によると、トランプ大統領は自動車の関税は変わらないというような発言をされているようなんですけども…。

(茂木大臣) 先程言ったとおりです。つまり、日本の話、中国の話、とたぶん聞かれた内容について、そのどちらかという話で、ロイターの方が質問したのかどうかわかりませんが、中国については、高関税は変わらない、そして日本についても、関税は変わらないということは232は適用されない、このような発言をされたんだと思います。

(記者) 1回目の首脳会談でトランプと総理の交渉といいましょうか、決めたことはなくて、あくまで大臣とライトハイザーの間で合意した内容を確認してということでしょうか。

(茂木大臣) そうです。

以上

(以上)